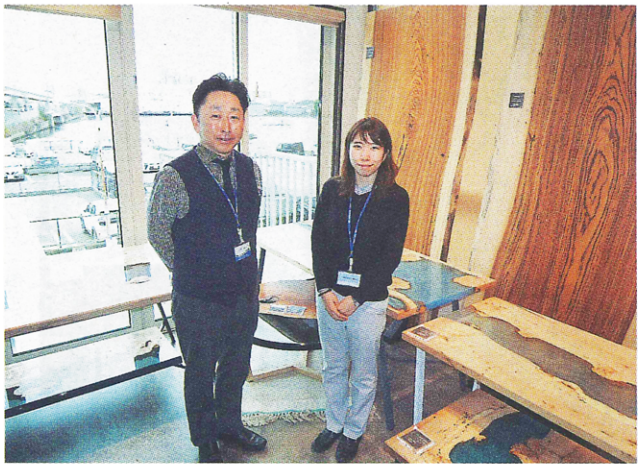
ムクのテーブル提案

ショールーム＋工房を本社隣接地に

村上木材・オフィスM'S

村上木材（大阪市、佐原謙次社長）は、ムクの一枚板やレジン木材などを提供する「オフィスM'S」を平林南の本社事務所に隣接する形で開設し、約5年になる。佐原社長は「ムクの床材、羽目板にこだわった顧客の住宅の写真撮影にうかがったときに、せっかく内装にムク材を多用したのに、住宅本体に予算をかけすぎてテーブルがシートものだったことに疑問を感じた」という。

例えば、作り付けの家具にして住宅ローンと一体で家具も考えれば、予算が足りずに内装と家具がアンバランスになることを避けられるのではないかと考え、プレカットの取引先工務店にムクの天板を使った家具などを提案してもらおうとショールームを設けた。



佐原社長（左）と一枚板の仕入れを担当する天野さん

ショールームには工房も併設し、ムクの一枚板だけでなく木材と樹脂を組み合わせた「レジン木材」も製作している。

例えば、600ミリ幅の一枚板ではテーブルとしては幅が狭いが、2つ割りにして間にレジンを流すことで木材をより引き立て、かつ幅広の板にできること、抜け節をレジンで埋めて独特の表情をつくることなど様々なアイデアが浮かんでくる。

佐原社長は「材木屋としての自分の感性では無節や中杢など、従来の価値観で板を選んでしまう。若い女性に仕入れも任せたら、節が自然でいいなど、違った感性で選ぶ」という。

同社プレカット部リテールチームの天野愛さんは、自ら銘木市場などへ出向き、仕入れる。天野さんは「銘木市場では女性の設計士や女性の買い方もいる」と気後れすることなく仕入れに臨み、100万円を超える屋久杉の板なども仕入れてくる。

板を2ツ割りにするにも、木目に沿って割るか、板の間に水が流れるようなイメージに仕上げるかなど感性が生かされている。

最近の売れ筋はトチやモンキーポッドなど。

土・日曜などにはレジン木材の製作講座を開設するなど、レジン木材の認知が進んでいる。SNSなどで情報発信していることもあり、取引先工務店経由と一般の来場者はほぼ5対5の割合だ。

佐原社長は「木の良さをもっと知ってもらいにはどうしたらよいかを考えている。テーブルを購入してくれた人からは訪れたお客さんみんなに褒めてもらえるなどと言われ、好評だ」と話している。